

たまねぎレポート【354号】



平成29年4月27日

阪南青果株式会社

社内報

3月の月平均気温は、西日本、沖縄・奄美で低く、北日本では高かった。東日本は平年並みだった。降水量は、東日本の日本海側と西日本でかなり少なく、北日本と東日本の太平洋側で少なかった。沖縄・奄美は平年並みだった。日照時間は北・東・西日本で多かった。沖縄・奄美は平年並みだった。4月は、中旬に強風や豪雨に見舞われた地域があった。気温は寒暖め差がやや大きな日もあった。気象庁が発表した5～7月の3ヶ月予報では、この期間の平均気温は、全国的に平年並みか高い。降水量は西日本の太平洋側で平年並み亦は多い。月別予報は次の通り。

5月、北日本と東日本の太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。東日本の日本海側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。気温は、西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は高い。

6月、北日本と東日本の日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わる。後半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。気温は、北・東・西日本で平年並み亦は高い。降水量は、西日本の太平洋側と沖縄・奄美で平年並み亦は多い。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は平年と同様に曇りや雨の日が多い。後半は平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。気温は、北日本と沖縄・奄美で平年並み亦は高い。降水量は、東日本の太平洋側と西日本で平年並み亦は多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

3月の主要5大都市中央卸売市場の野菜の入荷は、前年比で増減まちまちで平均単価にもばらつきがあった。市場別に入荷量と価格は、札幌市場では入荷は前年比100%、平均価格はkg¥201前年比105%。東京市場は前年比104%の入荷で、平均価格はkg¥261前年比94%。名古屋市場は前年比99%の入荷で、平均単価はkg¥236前年比97%。大阪本場の入荷は前年比94%で、平均単価はkg¥254前年比101%。福岡市場の入荷は前年比121%平均単価はkg¥172前年比91%となっている。

玉葱の販売量もばらつきが大きく、九州産地の新玉の生育遅れや、北海道物の入荷の増減が大きく影響した。福岡市場の販売量は前年比143%、大阪本場は前年比82%で大差があった。平均単価はいずれの市場も前年を大きく上回った。市場別では、札幌市場の販売量は6,242トン前年比111%、平均単価はkg¥85前年比139%。東京市場は12,19

7トンの販売で前年比96%、平均単価はkg¥129前年比135%。名古屋市場の販売量は6,795トン前年比102%、平均単価はkg¥100前年比119%。大阪本場の販売量は4,296トン前年比82%、平均単価はkg¥116前年比132%。福岡市場の販売量は5,691トン前年比143%、平均単価はkg¥117前年比137%となっている。

日本農業新聞社が独自集計した、全国主要7都市の代表荷受7社の、主要野菜14品目の3月の販売量は、91,172トン前年比106%(前月比108%)。平均単価はkg¥164前年比97%(前月比104%)で、果菜類を中心に前年比安の品目が多かった。入荷が前年比増となった品目は、ホウレンソウが前年比129%、サトイモが126%、ダイコン、タマネギが117%など9品目(前月は9品目)。前年比減となった品目は、キャベツが前年比94%、ニンジン・ネギ・ナスが97%など4品目(前月は5品目)。価格が前年比高であったのは、キャベツが前年比145%、ニンジンが143%、タマネギが126%など6品目(前月は5品目)。前年比安であった品目はレタスが前年比70%、トマト・ピーマンが71%、サトイモが72%など7品目(前月は8品目)。となっている。

東京都中央卸売市場の3月の野菜の入荷は、117,268トン前年比104%(前月比105%)であった。多くの品目が前年を上回った。主要品目で前年比増となった品目は、ホウレンソウが前年比119%、ナスとトマト116%など11品目(前月は7品目)。前年比減となった品目は、ネギが前年比94%、ニンジンが95%、タマネギが96%など3品目(前月は7品目)。平均単価はkg¥261前年比94%(前月比102%)で、旬別では上旬¥253(前年比92%)、中旬¥263(前年比96%)、下旬¥266(前年比95%)であった。なお、当社に關係の深い品目の入荷量と平均単価は次表の通りである。

東京都中央卸売市場の3月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	127,734	103.5	108.9	261	94.3	102.0
た ま ね ぎ	12,197	95.9	104.1	129	135.1	124.0
キ ャ ベ ツ	17,423	103.7	125.4	124	137.6	96.1
だ い こ ん	12,181	105.7	105.0	94	99.5	104.4
は く さ い	7,238	109.1	64.1	130	118.0	131.3
レ タ ス	7,739	106.1	112.7	184	66.1	79.7
ば れ い し ょ	7,493	112.0	113.5	225	104.3	99.1
に ん じ ん	7,404	95.3	118.6	179	153.9	111.2
ト マ ト	6,750	116.3	123.9	372	71.5	92.1
き ゆ う り	6,556	100.0	130.1	283	84.4	89.6
ね ぎ	4,026	93.8	97.8	344	110.4	104.2
か ぼ ち ゃ	2,332	74.3	98.4	217	150.8	119.9
な が い も	768	85.8	105.9	481	130.6	106.0
れ ん こ ん	589	83.6	92.8	705	104.4	104.0
に ん に く	304	85.0	99.0	1090	111.0	93.6

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の3月の玉葱の入荷は、12,197トン前年比96%(前月比104%)で品薄傾向であった。主力の北海物の入荷は9,065トン前年比95%、占有率は74%で前年比1ポイントダウン。静岡物の入荷は1,192トン前年比103%、占有率は10%で前年比1ポイントアップ。長崎物は806トンの入荷で前年比89%、占有率は7%で前年並み。平均単価はkg ¥129前年比

135%(前月比124%)で、堅調に推移した。産地別の月平均価格は北海物がkg¥106で前年比148%、静岡物はkg¥211前年比117%、長崎物はkg¥199で前年比132%であった。亦、旬別では、上旬の入荷は前年比95%で平均単価はkg¥122。中旬の入荷は前年比93%で単価は¥129。下旬の入荷は前年比99%で、単価は¥134、相場は前月に続き高で推移した。

4月に入り、平年なれば府県産の新物の入荷が本格化するが、今年は天候不順で生育が遅れ、予想外に少ない入荷が続いた。北海物の入荷も意外に少なく、相場は堅調に推移した。4月上旬の入荷は、前年比94%で平均価格はkg¥136前年比160%の高値となった。産地別では北海物の入荷は前年比91%、佐賀は84%、長崎は114%であった。府県の早生物の生育は回復歩調となったものの、天候不順の影響もあり、中旬も入荷は少なく、前年比84%で平均価格はkg¥134前年比150%と品薄高相場となった。産地別の入荷は北海物が前年比96%、佐賀59%、長崎82%で市況は堅調を維持した。現時点では、佐賀、兵庫ともにベト病の発生が少なく、平年作を上回る作柄が確保出来る見通しにあり、早生系の入荷は前年比増となる予想で、出荷の本格化に伴い相場は続落歩調を辿る動きにある。

名古屋市場

名古屋市中央卸売市場の3月の玉葱の入荷量は、6,805トン前年比102%(前月比109%)で順調であった。北海物主力の販売で、北海物の入荷は6,073トン前年比108%、占有率は89%前年比5ポイントアップ。静岡物は417トンの入荷で前年比77%、占有率は6%で前年比2ポイントダウン。愛知物は273トンの入荷で前年比65%、占有率は4%で前年比2ポイントダウン。平均単価はkg¥100前年比119%(前月比115%)で前月に続き強保合で推移した。産地別の平均単価は、北海物はkg¥88で前年比128%、静岡物はkg¥212で前年比118%、愛知物はkg¥192で前年比127%となっている。

4月に入って、北海物の入荷は減少傾向となり、静岡も終盤で入荷が少なく、

地場の愛知物は生育遅れで、品薄高が続いた。北海物は産地在庫の急減か？先高期待か？出荷を要請しても増える気配はなく、集荷に苦労した。今週に入り愛知物の入荷が増加傾向となったが、北海物の終了で需給はタイトである。量販店では北海物の売り場を縮小し、愛知物の売り場を広げているが、現在の愛知物(レクスター)は大粒で2L が50%を超え、小売り向きのL、Mの手当てに苦労している。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の3月の玉葱の販売量は、4,296トン前年比82%(前月比115%)で、北海物は出荷の抑制と、府県産の早生物の生育遅れに依る出荷の後ズレで前年を下回った。主力の北海物の入荷は、3,230トン前年比79%、占有率は75%で前年比3ポイントダウン。長崎物の入荷は565トン前年比87%、占有率は13%で前年比1ポイントアップ。兵庫物の入荷は244トン前年比120%、占有率は6%で前年比2ポイントダウン。平均単価はkg ¥116前年比132%(前月比122%)で、堅調に推移した。産地別では、北海物はkg ¥97で前年比140%、兵庫物はkg ¥135で前年比60%、長崎物はkg ¥187で前年比142%となっている。

4月に入り、新物の引き合いが強まるも、長崎、佐賀の早生物の入荷が少なく、高値が続いた。本格的な出荷が始まった中旬も、雨天に阻まれ入荷は少なめで高値を維持した。月後半からは、天候の回復とともに長崎、佐賀物の入荷増に加え淡路物の入荷が始まり、需給は均衡した。今年の早生系は玉肥大が良好で大粒化し、2Lの比率が高く、2L割安、M割高の相場展開となった。北海物の入荷は意外に少なく、契約販売に終始した。4月1～20日までの入荷量は、前年比90%で、平均単価はkg ¥135前年比157%となっている。産地別の入荷は、北海物は前年比100%、佐賀84%、長崎73%、兵庫65%で新物の入荷が後ずれしている。5月の府県産の入荷は前年比大幅増となりそうだ。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の3月の玉葱の販売量は、5,691トン前年比143%（前月比134%）で前月に続き前年比40%以上の増加であった。北海物を始め九州管内の新物も総ての産地で前年を大きく上回った。主力は北海物で、北海物の販売量は4,611トン前年比139%、占有率は81%で前年比2ポイントダウン、平均単価はkg¥100前年比130%。長崎物は478トンの販売で前年比124%、占有率は8%前年比2ポイントダウン、平均単価はkg¥194前年比143%。香川物は175トンの販売で前年はなし、占有率は3%、平均単価はkg¥274。中国物は174トン前年比222%、占有率は3%前年比1ポイントアップ、平均単価はkg¥83前年比72%。となっている。

4月に入り、北海物は前年を上回る入荷が続いたが、大粒で2Lの比率が高過ぎ、2L安、L大・L高の相場展開となり、荷動きは鈍化傾向となった。九州管内の新物は長崎中心の入荷で量的にも多めで、銘柄毎の価格差が大きく、一部に投げ物が発生した。佐賀物の入荷が少なく完売が出来助かった。月半ばからは、新物主力の販売に移行した。長崎、佐賀ともに銘柄毎に品質格差があり、高安まちまちの相場展開となった。北海物は入荷減で売り込みの対象にならず、客離れが進行した。今週からは、佐賀の新物の出荷が本格化し、入荷増から荷凭れ傾向で、投げ物が発生し販売環境は厳しく、苦戦している。4月1～20日までの販売量は前年比142%、平均単価はkg¥121で前年比142%。

4月26日(水)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷213トン、保合

北海道 20kgDB2L¥2,100～1,950、L大¥2,600～2,550、L¥2,900 ～

北海道 20kgNT2L¥1,800～ L大¥2,000～ M¥1,300～1,200。

佐 賀10kgDB2L¥900～ L ¥1,400～1,300、 M ¥1,650～

【太田市場】 入荷230トン、強保合

北海道 20kgDB2L¥2,200～2,000、 L大 ¥2,500～2,300、 L ¥2,500～2,300、
佐 賀 10kgDB2L¥1,000～700、 L ¥1,300～1,000、 M ¥1,300～1,200。
佐 賀 20kgDB2L¥1,800～1,500、 L ¥2,500～2,300、 M ¥2,500～2,400。

【名古屋北部】 入荷132トン、弱い

北海道 20kgDB2L¥2,100～2,000、 L大 ¥2,500～2,300、 L ¥2,500～2,300。
愛 知 20kgNT2L¥1,800～1,700、 L ¥2,500～2,400、 M ¥2,400～2,300。

【大阪本場】 入荷99トン、弱い

北海道 20kgDB2L¥2,600～2,200、 L大 ¥3,000～2,700、 L ¥3,000～2,700。
長 崎 10kgDB2L¥1,000～900、 L ¥1,300～1,200、 M ¥1,300～1,200。
佐 賀 10kgDB2L¥1,000～800、 L ¥1,300～1,100、 M ¥1,300～1,100。
佐 賀 20kgDB2L¥2,000～ L ¥2,700～ M ¥2,700～
兵 庫 10kgDB2L¥1,000～800、 L ¥1,300～900、 M ¥1,100～1,000

【福岡市場】 入荷116トン、弱保合

北海道 20kgDB2L¥2,500～2,200、 L大 ¥3,000～2,500、 L ¥3,000～2,500。
長 崎 10kgDB2L¥1,300～600、 L ¥1,500～800、 M ¥1,500～800。
佐 賀 10kgDB2L¥1,300～600、 L ¥1,500～800、 M ¥1,500～800。

供給(産地)の動き

4月の出回り量は予想を下回り、品薄高相場が続いている。在庫が豊富と言われていた北海物は、切り上がりが意外に早く、4月末には一部を除き終了する見込みである。北海道産地では、府県産の早生物の減反減収を想定し、市場出荷を先送りしているとの情報が流れていたが、4月の市場出荷が意外に少なかった。反面、業務加工筋の原料在庫に昨年のような品薄感は出ていない。今シーズンはホクレンの販売戦略が功を奏し、3～4月は高値市況となり、有終の美を飾った。産地では、既に次シーズンの定植が最盛期に入っているが、い

ずれの地域の生産者も栽培意欲旺盛で、作業は前進化している。

府県産地の早生は減反と生育遅れで、3～4月の出荷は前年を下回り、異常高相場が続いた。昨年、べト病の大発生で生産減となった府県産も、今年はいはべト病の発生は少なく、生育は日毎に回復している。特に昨年は、佐賀産地が大きなダメージを受けたが、現在は病害の発生は少なく、生育遅れはあるものの早生系の作柄は豊作型で推移している。兵庫の淡路島でも、早生種の収穫が始まっているが、病害の圃場は見受けられず、作柄は豊作型傾向で推移している。出荷は連休明けから本格化する。愛知も生育遅れで出荷は後ズレ傾向にあるが、平年作を上回る作柄が期待されている。その他の中小産地も、作柄は前年を上回ると予想されている。

4～5月の輸入は、中国、ニュージーランド、オーストラリアになるが、いずれも前年並みか前年を上回る予想で、特にニュージーランド物に成約が多い。

府県産地

生育遅れで出荷が後ズレしていた府県産地の早生は、大型連休から出荷が本格化する。長崎の早生物は終盤となるが、佐賀、兵庫、愛知の早生は出荷の最盛期を迎える。佐賀では、減反、減収が懸念されていたが、春の低温低湿の天候と懸命な防除作業に依り、マルチ早生は生育の遅れはあものの、順調に回復し、作柄は平年作を上回り、現在出荷の反収は6トン前後に達している。例年、連休前後から出荷が本格化する黒マルチの早生は、今年作付が減少し、露地早生まで出荷の谷間が出来ると言われているが、露地物の回復も順調で病害が少なく、天候不順にならない限り大きな谷間が発生しないと思われる。直近1週間の球流れは2L31%(前年16%)、L48%(同50%)、M10%(同17%)、S4%(同年9%)、外7%(同8%)で大粒である。中晩生は今後の天候によるが、現状の生育は前年に比べ格段に良い。

兵庫の淡路島では、定植作業の後ズレで、全域で生育が遅れているが、早生系(レクスター)の一部で出荷が始まっているが、玉肥大が良く反収は8～7ト

ンに達している。生育に圃場格差はあるものの、総じては平年を上回る作柄と見受けられる。中晩生の生育は現在も1週間程度遅れており、草丈は平年並みだが葉鞘がやや細いものの、素性が良く良品質の収穫が期待される。現在の市況水準は前年を大きく上回っており、生産者は昨年並みの夏高を期待している。4月半ばの産地相場は20kg裸値¥4,000の高値出発となったことで、5～6月も¥2,000前後を期待している。

北海道産地

28年度産が豊作であったにも拘わらず、予想を上回る高値で完売出来たことで、栽培意欲は盛り上がり、前年を上回る作付が予想されている。極早生の種子不足はあるものの、定植は3月末から始まり、4月末には終盤を迎えるまでに前進化している。昨年の夏高市況を反映して、極早生の栽培面積は前年比30%の増反が予想されている。

外国産地

3月の輸入は、速報値で、28,272トン前年比156%。主な国別の輸入量では、中国が23,233トン前年比150%。ニュージーランドが3,804トン前年比252%。タイが743トン前年比73%、アメリカが346トン前年比270%となっている。4～7月の輸入は、中国、ニュージーランド、オーストラリヤになる。

中国、現在、入荷の産地は雲南省で、播種時の相場低迷が反映して前年比減反となった。収穫は早生種が3月上旬から、中晩生は3月下旬からで、4月下旬に終了する。作柄は良好で単収は平年を上回ると報告されている。現地相場は値下がり傾向で、日本向け価格は、ムキ玉20kg・C&F・\$9.00～9.40である。

ニュージーランド、今シーズンの栽培面積は5,225ha(前年比106%)で、黄玉4,606ha(前年比105%)、赤玉619ha(前年比122%)と報告されている。作柄は低温、干ばつ、強風などに見舞われ、玉肥大が進まず作柄は圃場格差が大きく、生産量は前年比10,000～5,000トンの減少と予想されている。

日本向け価格は、20kg・C&F・70～80mm・¥1,200。75～85mm・¥1,350の水準である。

オーストラリア、成約の主力は前年同様大量販店で、5～7月にタスマニア産5,200トンの輸入を計画している。価格はC&F・kg ¥75前後と聞いている。

5月の市況見通し

4月市況は北海道産地が終盤を迎え市場入荷が減少したことや、府県産地の早生物の出荷が後ズレしたことで、予想外の高値市況が続いたが、5月は府県産地の揃い踏みで、5月の天候が高温多湿でべと病が大発生しない限り、需給は均衡し市況は、前月の高値から一段安の展開になると見ている。連休明けからジリ貧となり、月半ばの中心相場は20kg ¥2,000～1,500を予想。(了)